

第5章

チリ

1. チリの概要

1.1) 一般事情

1. 面積 756,000平方キロメートル(日本の約2倍)
2. 人口 1,776万人(2014年 世銀)
3. 首都 サンティアゴ(Santiago)
4. 民族 スペイン系75%、その他の欧州系20%、先住民系5%
5. 言語 スペイン語
6. 宗教 カトリック(全人口の88%)

1.2) 政治・経済

1. 政体 立憲共和制
2. 元首 ミCHEル・バCHEレ・ヘリア大統領
3. 議会 上下両院制(上院38、下院120)
4. 政府
 - (1) 首相 首相職無し
 - (2) 外相 エラルド・ムニョス・バレンスエラ
5. 一人当たりのGDP
13,341ドル(2015年 IMF)

1.3) 教育制度等

1. 担当行政機関 教育省(Ministerio de Educación)
2. 学校制度 8・4・4～7(大学の学部による)制
3. 義務教育期間 7歳～18歳
4. 学校年度 3月～12月
5. 学期制 3学期制若しくは2学期制(学校による)
6. 授業料 公立学校は基本的に無償。
7. 成人の識字率 99%
8. 初期教育純就学率 93%

1.4) 日本との関係

- ▶ 1897年 外交関係樹立
- ▶ 1952年 外交関係再開
- ▶ 2007年 日本・チリ経済連携協定(EPA)

2. 日本語教育機関分布状況

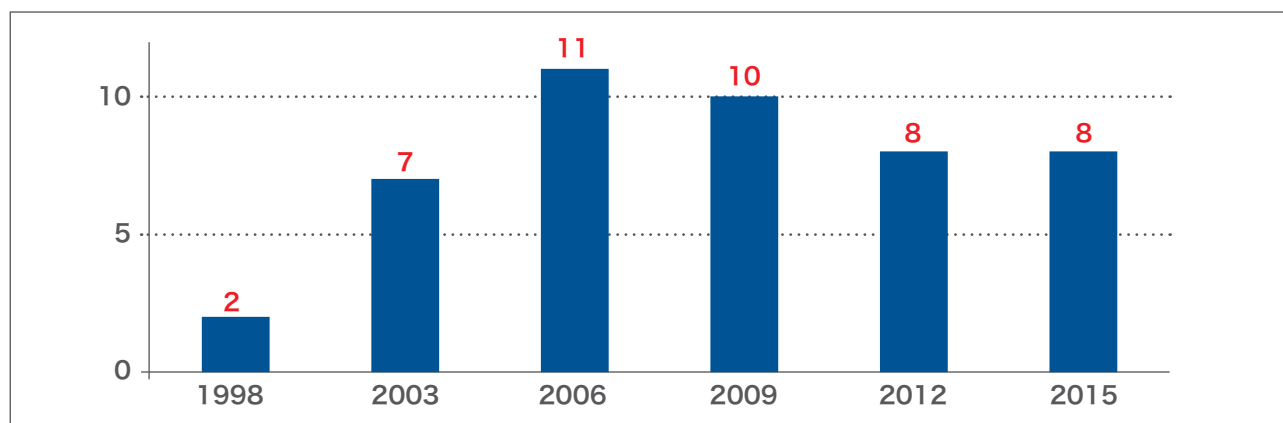


http://d-maps.com/carte.php?num_car=25282&lang=en

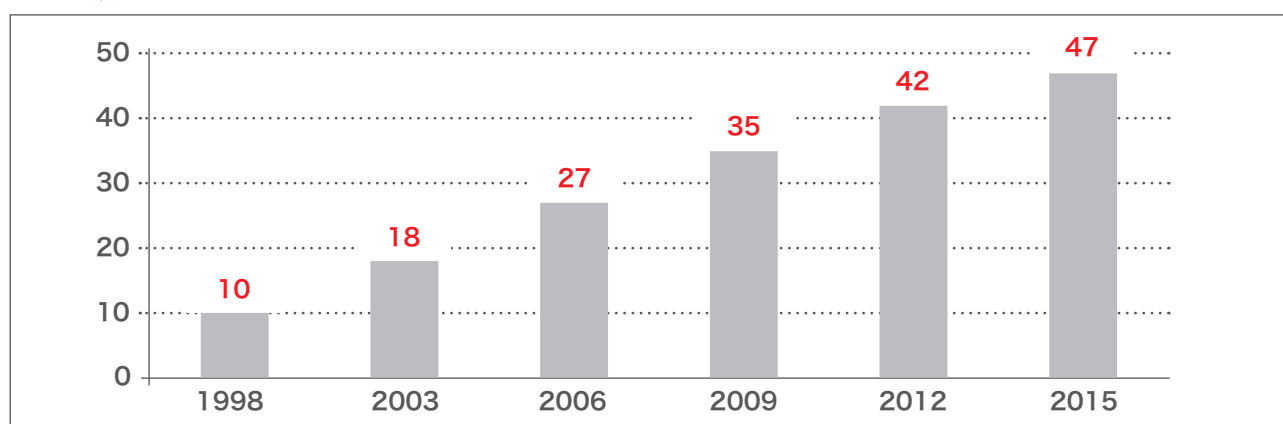
3. 日本語教育事情

3.1) 基本情報

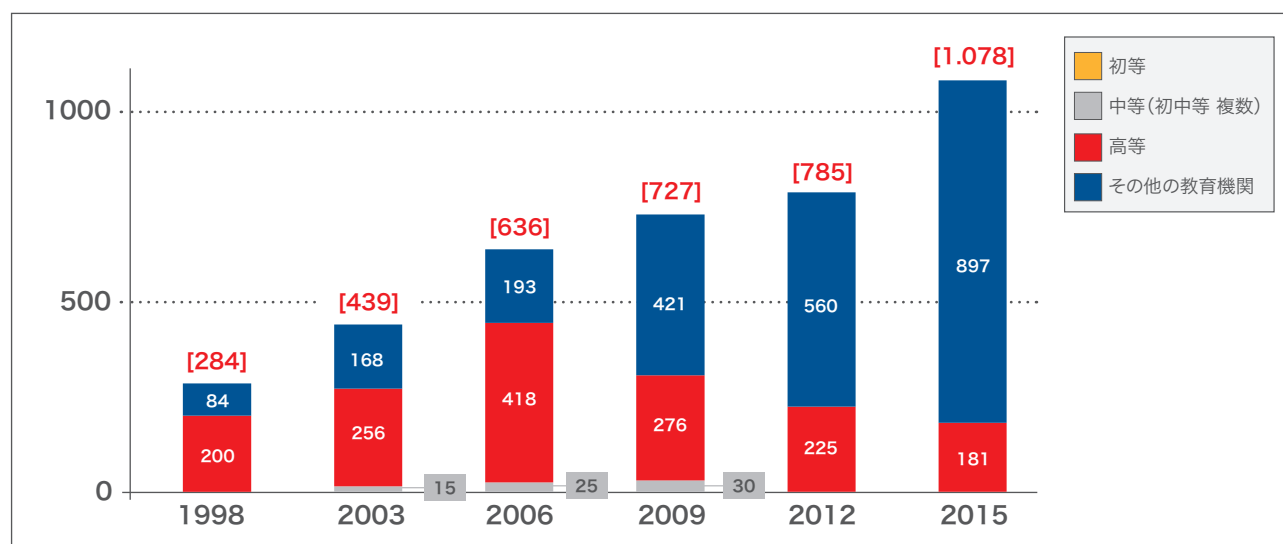
3.1.1) 機関数(1998年～2015年)



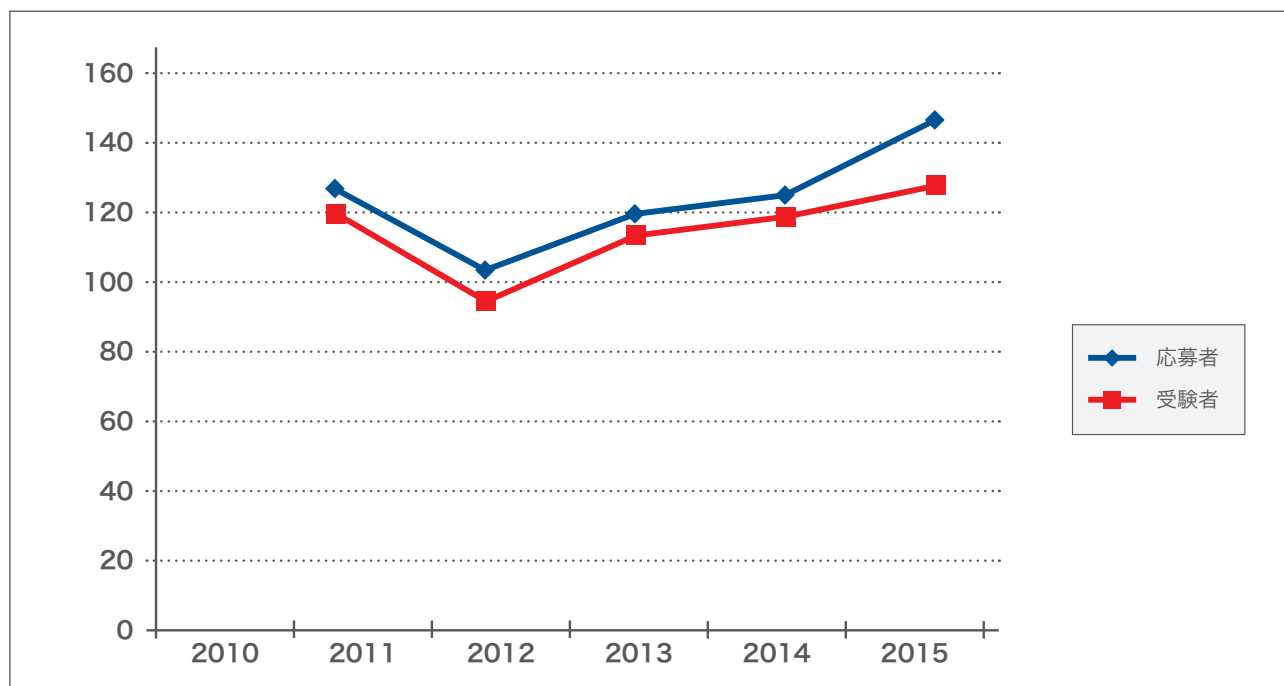
3.1.2) 教師数(1998年～2015年)



3.1.3) 教育段階別学習者数(1998年～2015年)



3.1.4) 日本語能力試験応募者数・受験者数(2010年～2015年)



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
応募者		129	103	121	127	151
受験者		121	93	114	120	130

▶ 実施都市： サンティアゴ(開始年:2011年)

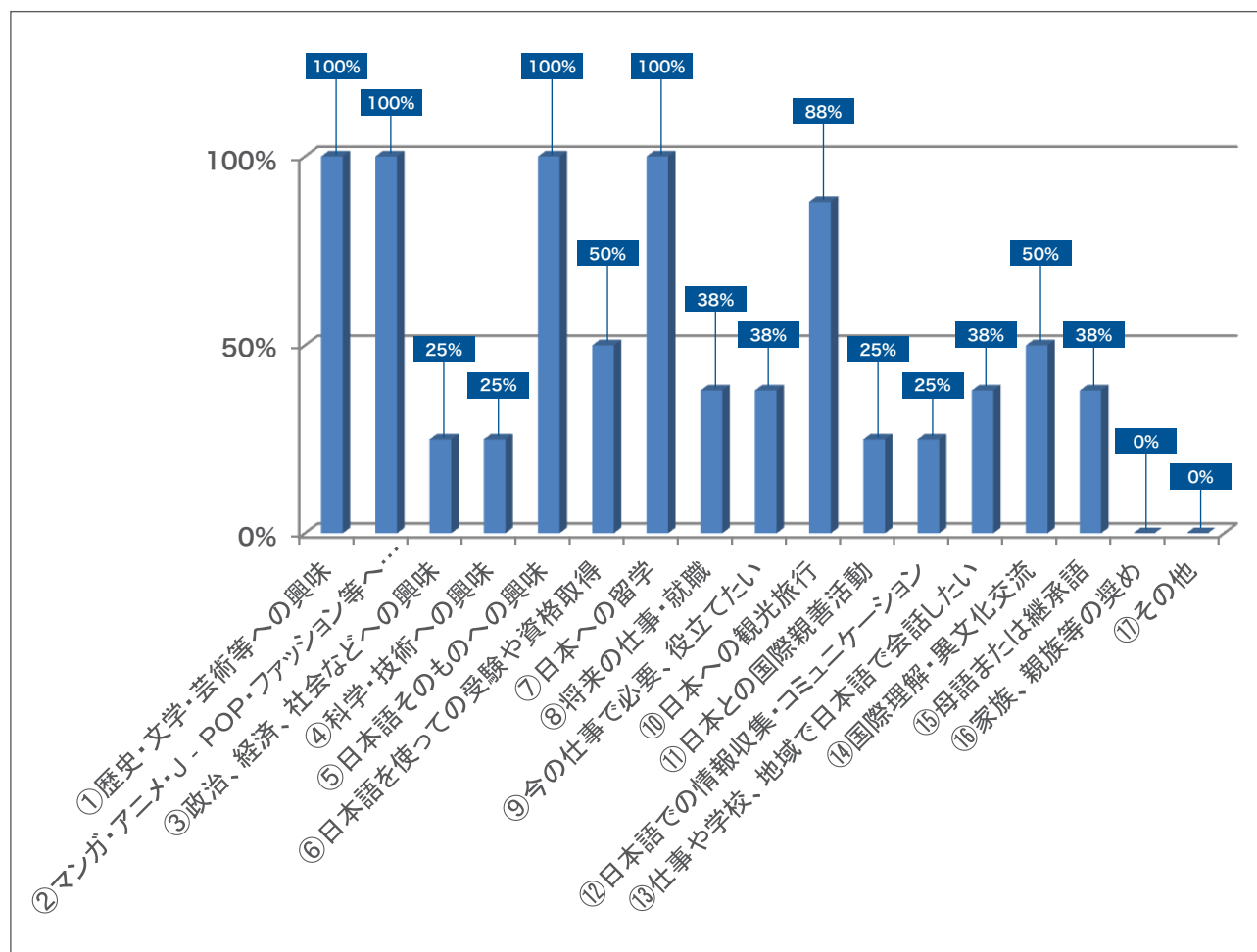
▶ 時期： 7月、12月

▶ 実施機関： サンティアゴ大学

2015年 JLPTレベル別受験者数

レベル	N1	N2	N3	N4	N5	合計
人数	8人 (6%)	11人 (8%)	25人 (19%)	38人 (29%)	48人 (37%)	130人

3.1.5) 日本語学習の目的・理由(2015年)



3.1.6) 日本語教育実施状況(2015年)

項目	スケール	機関数	割合
A 学習者数に対する教師の数	多い	0	0%
	ちょうどよい	6	75%
	少ない	2	25%
	わからない	0	0%
B 十分な日本語運用能力を備えている教師	4分の3以上	6	75%
	2分の1程度	2	25%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	0	0%
C 十分な日本語教授の知識・技術を備えている教師	4分の3以上	4	50%
	2分の1程度	2	25%
	4分の1以下	2	25%
	わからない	0	0%
D 日本語教材、教授法に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	4	50%
	2分の1程度	3	38%
	4分の1以下	1	13%
	わからない	0	0%
E 日本の文化・社会に関して積極的に情報収集を行っている教師	4分の3以上	6	75%
	2分の1程度	1	13%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	1	13%
F 学習者数に対して日本語教材の数	十分である	1	13%
	概ね揃っている	2	25%
	不足している	5	63%
	わからない	0	0%
G 現在使っている教材は学習者に合っているか	非常に合っている	2	25%
	どちらかといえば合っている	6	75%
	不足している	0	0%
	わからない	0	0%
H 現在使っている教材は教える内容・目的の面で適切か	適切である	2	25%
	どちらとも言えない	6	75%
	適切ではない	0	0%
	わからない	0	0%
I 施設(建物・教室)の状況	よい	1	13%
	現状で支障はない	5	63%
	やや支障がある	2	25%
	わからない	0	0%
J 日本語教育設備、機器の状況	よい	2	25%
	現状で支障はない	3	38%
	やや支障がある	2	25%
	わからない	1	13%
K 積極的に授業に取り組む学習者	4分の3以上	6	75%
	2分の1程度	2	25%
	4分の1以下	0	0%
	わからない	0	0%

※50%以上 、30%~49% (無回答を除く)

3.2) 機関情報

3.2.1) 国立サンティアゴ大学人文学部

西語名: FAHU USACH: Facultad de Humanidades, Universidad de Santiago de Chile

住所: Av. Libertador Bernardo O'Higgins, 3363 Santiago, Región Metropolitana

電話: +56-2- 2718-0000

メール: edinson.munoz@usach.cl (日本語コーディネーター:エディンソン・ムニョス准教授)

サイト: www.usach.cl

概要: 技術系の研究が盛んな同大学の理工系の学生達からの要望により、1993年に選択科目としての日本語講座が開講された。1995年に人文学部言語文学科内に英語日本語翻訳課程として日本語を主専攻として学べるようになった。2000年にはポルトガル語も加わり、1年次に翻訳課程共通の英語、ポルトガル語、日本語の3言語を学び、2年次に英語・ポルトガル語専攻または英語・日本語専攻を選択する。卒業時には「日本語・英語翻訳応用言語学⁴⁹⁾」の学位と、スペイン語日本語翻訳とスペイン語英語翻訳のための「日本語英語翻訳家⁵⁰⁾」の称号が授与される。2002年から3期、カリキュラム整備のためにJF上級専門家が派遣されている。

以前は、卒業時の到達のレベルがJLPT N3レベルであったが、2009年からJLPT N2合格を目指したカリキュラムに移行。新カリキュラムではN2合格レベルを卒業条件にしている。

2014年から日本語・スペイン語教育の発展を目的に毎年「日本国際セミナー」を開催している。また、年2回行われている日本語能力試験の実施機関でもある。

3.2.2) 日智文化協会

西語名: Instituto Cultural Chileno-Japonés (ICJJ)

住所: Seminario,15 Providencia, Santiago

電話: +56-2-2223-7530/2-2209-8613

メール: secretaria@japones.cl

サイト: www.japones.cl

概要: 1940年創立の教育省、文化庁に認定された非営利の社団法人(Instituto oficial)。日本在勤経験のあるチリ人外交官が集まり、日本とチリの友好関係を深める目的で設立された。日本語が教えられるようになったのは1975年で、チリ初の民間日本語学校である。2002年まではチリの日本語教育機関は同協会とサンティアゴ大学のみにあった。現在、同協会の日本語講座では約300人が日本語を学んでいる。教師数は10人(日本人6人、日系人1人、チリ人3人)。4年で『みんなの日本語1, 2』を終えるコースになっている。2014年にJF訪日研修に参加した同協会教師が、2015年から『まるごと 日本のことばと文化』を使った講座を始めている。

⁴⁹⁾ Licenciado en lingüística aplicada a la traducción con mención en inglés y japonés

⁵⁰⁾ Traductor con mención en inglés y japonés

3.2.3) 日本総合学習センター

西語名: Centro de Estudios Integrales de Japón (CEIJA)

住所: Cirujano Guzmán, 176, Santiago

電話: +56-2-2717-6014

メール: info@ceija.cl

サイト: www.ceija.cl/site

概要: 2007年に日本人2人、チリ人2人によって設立された民間の日本語学校。2016年5月時点の学習者数は250人、教師数15人(日本人7人、中国人1人、日系人1人、チリ人6人)。『みんなの日本語1, 2』を3年半で終える。2学期制(①4～8月、②8月～11月)。インテンシブコース(1年)終えた時点でJLPTのN4合格が目標。レギュラー、インテンシブ、夏期インテンシブ、子どもコースなど日本語講座がある。私立チリ・カトリカ大学や国立チリ大学法学部、工学部、Colegio Akrosなどの外部機関と連携し日本語講座を実施したり、現地初中等教育機関の要請に応じて日本文化講座を実施したりしている。

3.2.4) チリ中央日本人会

西語名: Sociedad Japonesa de Beneficencia (Chile)

住所: Alcantara, 772 Las Condes, Santiago

電話: +56-2-2206-0979/2-2263-2634

メール: sociedad.japonesa@gmail.com

サイト: www.sociedadjaponesa.cl

概要: 1949年設立の首都及び近郊在住者を中心とする日本人・日系人の親睦・相互扶助を目的とする非営利団体。他の日本語学校と大きく異なる点は、日系人のための日本語教育に重点を置いている。ただし、日系人学習者は少ない。学習者数45人(うち日系人8人)、教師はJICAシニア海外ボランティアを含め3人(日本人)。初級コースは4段階に分けられており、各100時間計400時間で修了。12～15歳の子どもクラス、中上級コース、JLPT対策コース、漢字検定受験コースなどもある。漢字検定は日本人学校にて実施されている。中上級コースにはサンティアゴ大学の卒業生や日智文化協会の初級コースを終えた学習者も来る。同会は日本人・日系人のみを会員の対象としており、チリ人は同会の「会員」になることができない。ただし、授業料を払えば、日本語講座を受講することは可能で、講座を受講する以外に、文化イベントへ参加できるという会員と同様の権利がある。

3.3) 教師会

JFから専門家が派遣されていた時期に、教師会が組織され、現職日本語教師だけでなく経験者や日本語教師希望者などを対象に、メーリングリストによる情報交換や相談などの活動および日智文化協会において年3回程度の勉強会を開催していた。2017年2月現在活動していない。

▶ 過去の勉強会のテーマ(2003～04年度)

第1回 国際交流基金在外邦人日本語教師研修報告

第2回 国際交流基金海外日本語教師冬期短期研修・長期研修報告

第3回 年少者の日本語教育

第4回 ワークショップ「例えば『みんなの日本語』だと・・・」

第5回 年少者の母語保持における親の意識—日本在住ブラジル人の場合—

第6回 日本語教育機関(8機関)の機関報告およびチリの日本語教育に関する意見交換

3.4) 教師資格・教師養成

3.4.1) 教師資格

各機関で資格・条件を設定しているところもあるが、日本語教師としての資格要件は特にない。

3.4.2) 教師養成

日本語教師養成機関、養成講座なし。機関によってはベテラン教師が新人教師に対してOJTを実施している。

3.5) 研修・助成利用実績

3.5.1) 教師対象

南米の日本語教師が利用できる教師研修には、JFの公募プログラムにある海外日本語教師研修、CBLJが行っている汎米研修がある（☞第一部3-2, 3-3）。また、日系人であれば、JICAの日系研修も利用可能である。

▶ JF訪日研修参加実績(1989年～2016年)

年	研修	所属(申請当時)
1994	在外邦人研修	日智文化協会
1995	短期研修	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
1995	在外邦人研修	日智文化協会
1996	在外邦人研修	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
1997	在外邦人研修	日智文化協会
2000	在外邦人研修	日智文化協会
2001	長期研修	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2002	短期研修	日智文化協会
2002	在外邦人研修	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2004	短期研修	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2005	短期研修	私立アウストラル大学
2005	長期研修	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2005	在外邦人研修	日智文化協会
2006	長期研修	カトリカデルノルテ大学
2006	在外邦人研修	日智文化協会
2008	長期研修	日本総合学習センター
2009	長期研修	チリ中央日本人会
2010	長期研修	私立アウストラル大学
2011	長期研修	中央日本人会
2012	長期研修	アジアグローバル
2014	短期研修	日智文化協会
2015	長期研修	日智文化協会

※ 在外邦人研修は現在行われていない。日系人研修は2012年度から開始。

▶ CBLJ汎米日本語教師合同研修会参加実績

年度	人数	機関
2015	1人	日智文化協会
合計	1人	

その他に日系人の日本語教師が利用できる研修にJICAの日系研修がある。

www.jica.go.jp/partner/nikkei/index.html

3.5.2) 学習者対象

日系非日系を問わず利用できるものには、JF本部事業の「日本語学習者訪日研修」、FJSP主催の「南米中等教育生徒サンパウロ研修(以下、サンパウロ研修)」がある。サンパウロ研修の対象者は、公教育の日本語講座で2年以上の日本語学習経験がある13歳から18歳までの学習者が対象となっている。

日系人であれば、JICAの日系次世代育成研修⁵¹、CBLJ主催のふれあいセミナー⁵²(費用は自己負担)などがある。

▶ JF日本語学習者訪日研修(各国成績優秀者)

日本語を学習し、優秀な成績を修めている学習者を2週間日本に招へいし、講義や研修旅行を通じて、日本語および日本文化・社会への理解を深める機会を提供するプログラム。以下は参加実績。

年度	人数	所属先(申請当時)
1997	1人	日智文化協会
1998	1人	カプテルナ医療センター
1999	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2000	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2001	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2002	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2003	0人	
2004	1人	Price Corporation
2005	1人	不明
2006	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2007	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2008	1人	PUMA チリS.A
2009	1人	不明
2010	1人	CEIJA
2011	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2012	1人	私立アウストラル大学
2013	1人	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科
2014	1人	無所属
2015	1人	CEIJA

※ 参加者は、国際交流基金海外拠点または在外公館の推薦にもとづき、関西国際センターが決定する。チリでは、大使館による筆記試験と面接により推薦者を選考している。

⁵¹ 詳しくは各国JICA事務所、支所に問い合わせください。

⁵² 詳しくは各国JICA事務所、支所に問い合わせください。

▶ 南米中等教育生徒サンパウロ研修参加

中等教育段階に対象機関がないため、対象国になっていない。

3.5.3) 機関支援(助成)

2009年度まで海外における日本語教育の分野には「海外日本語講座現地講師謝金助成」、「海外日本語弁論大会助成」、「海外日本語教育ネットワーク形成助成」、「日本語教材寄贈」があったが、2010年度よりこれまでのプログラムを統合した新しい公募助成プログラム「日本語普及活動助成」が実施されるようになった。また、同助成は2017年度より名称が「海外日本語教育機関支援(助成)」に改められた。⁵³

年度	機関	助成
2007	日智文化協会	海外日本語弁論大会助成
2007	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科	日本語教材寄贈
2007	ラ・セレナ大学	日本語教材寄贈
2007	インスティテュート・ナシオナル	日本語教材寄贈
2007	日智文化協会	日本語教材寄贈
2007	チリ中央日本人会	日本語教材寄贈
2008	日智文化協会	海外日本語弁論大会助成
2008	「日本の心」語学学校	日本語教材寄贈
2008	日本総合学習センター	日本語教材寄贈
2008	バルパライソ州日系人会	日本語教材寄贈
2008	カトリカデルノルテ大学 人文学部	日本語教材寄贈
2009	チリ中央日本人会	海外日本語講座現地講師謝金助成
2009	弁論大会実行委員会	海外日本語弁論大会助成
2009	チリ中央日本人会	日本語教材寄贈
2009	アジアグローバル	日本語教材寄贈
2009	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科	日本語教材寄贈
2011	チリ中央日本人会	学習者奨励活動
2011	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科	教材購入
2011	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科	教材制作
2014	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科	学習者奨励活動助成
2015	国立サンティアゴ大学 人文学部言語学科	学習者奨励活動助成

⁵³ 参考：「平成29年度公募プログラムガイドライン」www.jpf.go.jp/j/program/dl/guidelines_j_2017.pdf

3.6) 出講・派遣実績

3.6.1) JF専門家

▶ 派遣実績

派遣先: サンティアゴ大学人文学部言語文学学科翻訳課程

期間: 2002年1月15日～2010年1月30日(計3期)

目的: カリキュラム改訂

年度	訪問先／研修会名	テーマ／内容
2002	日本語教育巡回セミナー	不明
2016	チリ日本語教師研修会	『まるごと 日本のことばと文化』概要、理論、実践

3.6.2) JICAボランティア⁵⁴

1997年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計25名。

【 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア 】

	配属先	人数
初等教育	エルターボ町役場	1人
高等教育	国立サンティアゴ大学	2人
	カトリカデルノルテ大学	5人
	アウストラル大学	7人
	ラ・セレナ大学	1人
その他	チリ合気道文化センター	1人

【 青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・日系社会青年・日系社会シニアボランティア 】

	配属先	人数
日系日本語学校	チリ中央日本人会	6人
	第五州日系人会	2人

【 2017年3月の派遣状況 】

配属先	ボランティア	期間
サンティアゴ大学	シニア海外ボランティア	2015年3月～2017年3月
ラ・セレナ大学	シニア海外ボランティア	2015年3月～2017年3月
チリ中央日本人会	シニア海外ボランティア	2016年1月～2018年1月
私立アウストラル大学	シニア海外ボランティア	2015年9月～2017年9月

⁵⁴ JICAナレッジサイト「国別派遣概況【中南米】※外部公開用※」

4. 行動計画

4.1) 現状認識

【地理的状況】

南北に細長く、日本の約2倍の広さがある。日本語教育機関は、サンティアゴまたはその周辺に集中しているが、北部のラ・セレナ、南部のアウストラル、コンセプションにも高等教育機関がある（☞チリの日本語教育機関分布状況）。

【日本語教育の沿革】

1940年創立の日智文化協会が、1975年に日本語講座を開講したのがチリの日本語教育の始まり（☞3-2-2）。ほかの南米諸国とは異なり、日系移民子弟を対象とした日本語教育ではなく、チリ人を対象とした形で始まった。1993年にはサンティアゴ大学に選択科目として日本語が導入され、1995年に英語日本語翻訳課程の正規科目となった（☞3-2-1）。同課程は南米で唯一日本語を主専攻で学ぶことができる。2002年までは日智文化協会とサンティアゴ大学の2機関が中心であったが、2002年以降JICAボランティア派遣が増え、高等教育機関やその他の教育機関で日本語講座が相次いで開講された。主流は外国語としての日本語教育であるが、チリ中央日本人会において限定的であるが日系日本語教育も行われている（☞3-2-4）。日智文化協会やアウストラル大学では『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』）が一部導入されている。

【日本語教育の全体的状況】

2015年のJF日本語教育機関調査では、機関数8、教師数47、学習者数1,078で、学習者数は調査開始時から増加傾向を維持している。学習者のうち、その他の教育機関で日本語を学ぶ人は全体の80%強を占める（☞3-1）。初中等教育段階で日本語が導入されているところはないが、その他の教育機関である日本総合学習センター（通称、CEIJA）などは、初等教育機関で日本文化のワークショップを行ったりしている（☞3-2-3）。JLPT受験者数は2012年以降増加傾向にある（☞3-1-4）。

【日本語学習の目的・理由】

目的・理由としては、歴史・文学、マンガ・アニメなどのポップカルチャー、日本語そのものへの興味や日本への留学の割合が高い（☞3-1-5）。

【日本語教育実施状況】

全体的に課題として意識されているのは日本語教材の数である（☞3-1-6）。そのほかの項目については大きく課題として意識されている項目はない（☞3-1-6）。

【中核機関／主要機関】

中核機関はないが、主要機関にJFにほんごネットワーク（通称さくらネットワーク）のメンバーにもなっているサンティアゴ大学、またそのほかに日智文化協会、CEIJA、チリ中央日本人会がある（☞3-2）。2002年から2009年までJF専門家が派遣されていた時期には教師会があったが、現在は活動していない。

【ネットワーク状況】

2002年以降相次いで開講した日本語教育機関は横のつながりがあまりなかったが、2008年から大使館主導のもと、9機関の代表者からなる「弁論大会実行委員会」が組織され、全国規模での弁論大会を実施するようになった。今後は各機関の独自のニーズに基づいた活動以外に、機関同士が連携し、日本語教育関連事業を協働で企画実施をしていくことも期待したい。以前は、JF、日本、南米各国とのつながりはあまりなかったが、2015年と2016年の南米会議への参加により、南米各国とのネットワークが構築されつつある。

【教師養成、教師研修】

教師養成講座や機関はないが、各機関で行われているOJTによる教師研修が教師養成につながっていると言える。JF訪日研修、JF助成は積極的に利用されている(☞3-5-1)。JF訪日研修については、在外邦人研修と長期研修の利用が多い。長期研修修了者が多いため、今後は短期研修への参加が期待される。

【公的派遣実績】

2002年から3期、サンティアゴ大学にカリキュラム整備のためにJF上級専門家が派遣された(☞3-6-1)。1997年から2016年までにJICAから派遣された日本語教育ボランティアは総計25名(☞3-6-2)。現在派遣中のJICAボランティアは4名。

【特記事項(最新動向など)】

計画移住がなかった国の中では日系人数がもっとも多く、在留邦人、日系企業の進出も多い。日本とは2007年に経済連携協定が締結されており、日系企業は93社、うち本邦企業が26社と南米スペイン語圏の中では本邦企業の進出がもっとも多い(☞第一部1-1)。

4.2) 方針と具体策

(1) 国内の教師間および機関同士のネットワーク強化を通じて、日本語教育の質的向上を図る。

- イ) 当面、大使館が、日本語教育機関代表者と相談しながら、学習奨励活動、教師研修等を実施するが、計画期間内に各日本語教育機関代表者および教師が主導で日本語教育事業を企画実施する。
- ロ) FJSP・MCは、大使館・JICAと連携をとりながら、現地の要望に応える形で、教師研修、学習者奨励活動への出講、『まるごと』の導入支援などを行う。

(2) 増加傾向にあるその他の教育機関における日本語学習者数の維持・拡大に努めるとともに、学習者の裾野拡大を図る。

- イ) 大使館および日本語教育機関は、引き続き積極的に学習奨励活動や日本文化普及事業を行う。
- ロ) FJSP・MCは、大使館・JICA・教師会と連携しながら、必要かつ可能な支援を行うとともに、JF開発のオンラインコンテンツに関する情報提供や、助言等を行う。

(3) 南米の高等教育機関とのネットワーク構築を図る。

- イ) サンティアゴ大学が、南米スペイン語圏で唯一日本語専攻がある大学として、南米各国および日本の大学とのネットワーク構築を図るとともに、情報共有を行う。
- ロ) FJSP・MCは、大使館・JICAと連携をとりながら、サンティアゴ大学の要請に応じて、必要かつ可能な支援を行う。